



- ▶ 学年 小学校 第2学年
- ▶ 単元 生きもの なかよし 大作せん

POINT 01

対話的な学びを引き出す教師の仕掛け

本単元は、身近な生き物を飼育する活動を通して、生き物の育つ環境や生き物の変化、成長の様子に関心をもって働きかけ、生き物に親しみをもち、大切にしようとするをねらいとしている。本時では「生き物を元気に育てたい」という願いをもって行ったそれぞれの世話の仕方について振り返る。その中で、教師は、子どもたちが生活経験を基に、生き物の立場に立ったり、予想したりしながら、カナヘビへの関わり方について話し合うことができるようにしたいと考えた。そのために、カナヘビの飼育環境について困り感を話す児童 A に対して、何に困っているのかについて問い返し、全体に広げた。以下は、そこから始まった話合いの一部である。

POINT 02

対話的な学びの様子

◎ 生き物の世話の仕方について気付いたことを話し合う。

児童 A 「ぼくはチョコロコ（カナヘビの名前）の家を作ろうと、石を入れてあげたけど、喜んでいるのかなあ。」

教師 「何か心配なことがあるのですか。」

児童 A 「チョコロコは石の上でひなたぼっこをしたり、石の下に隠れたりしているけど、**（えさの）クモも石の隙間に隠れるから見つけれられるか心配で、なんとかしたいのだけど…。**」

教師 「カナヘビが食べ物を見つけられるかどうか心配なのですね。みんなはどうしたらいいと思いますか。」

児童 B 「**広いところにクモを動かして、見つけやすくしたらどうかな。**」

児童 C 「今チョコロコがクモを探さないのは、おなか为空いていないからなのかもしれないよ。」

児童 D 「それなら、**石を置いたままでも、おなか为空いたら自分でえさを探して食べるかもしれないね。**」

児童 A 「**確かに、チョコロコを見つけた場所だって石や草があって、えさをすぐに見つけられる場所じゃなかったなあ。**」

児童 D 「だったら、石は入れたままでもいいかもね。わたしは、バッタの赤ちゃんのために元々いた場所の草を入れたんだけど、（バッタの赤ちゃんは）食べるだけでなく草の上で休むようにもなったよ。」

児童 A 「**家と食べ物が同じって、バッタはすごいね。さつき虫かごに入れたクモを、チョコロコの前に置いて、すぐ食べるのかを確かめてみようかな。**」



「授業改善グランドデザイン」との関連

生活科においては、子どもが予想を基に「～したらどうかな」と、試行錯誤しながら生き物と関わろうと学び出す姿を求めていく。そのために、子どもの学びの様子を共感的な態度で見守る教師の構えを大切にしていきたい。

POINT 03

学びが深まった児童の姿

その後、児童 A は、カナヘビの前にクモを置き観察したが、カナヘビはクモを見ても、すぐに食べようとはしなかった。このことを基に「ぼくと同じで、チョコロコはおなかの空いたときだけ食べるのかもしれない。」とカードにまとめ、えさを入れた後いつ食べるのかと観察を継続するようになった。また児童 D は、児童 A の発言から、バッタ本来の生育環境である草むらぎ、住みかたと食べ物という2つの意味をもつことを再確認し、「バッタの赤ちゃんのために草が枯れないようにしたい。」と今後の飼育でさらに工夫しようとする意欲につながることができた。飼育する生き物が異なっても、思いや困り感を共有し、全体で話し合うことで、それぞれが飼育する生き物への思いを高め、充実した活動につなげていきたい。